

## 第35回大分県

# 『小さな親切』作文コンクール

第35回大分県「小さな親切」

作文コンクールが開かれ、県内の小さな親切運動各支部からたくさんのお応募がありました。

審査の結果、市内から次の皆さんが入賞しました。全日本コンクールでも入選した二人の作品を紹介します。(原文のまま)

入賞者 (敬称略)

### 小学生の部

大分県本部優良賞

高森 優馬

(武蔵東小三年)

高橋 奈歩 (小原小六年)

### 中学生の部

大分県議会議長賞

清原 彩加 (武蔵中三年)

大分県教育委員長賞

中田 美代子 (国見中二年)

大分県教育長賞

西田 千佳子 (武蔵中一年)

大分県本部会長賞

野上 栞 (国見中三年)

大分県本部優良賞

徳丸 栞 (武蔵中三年)



## 『今伝えたい』ありがとう』



武蔵中学校一年

西田 千佳子

小さな親切。それは人が人のことを思い、自然とわき出てくる、温かく美しい行動だと思います。私はふだん、できるだけ人が困っているのを見つけたときは、自分でできる手助けをしています。ですが先日、せっかく差しひてくれた親切の手を、素直に受けとることができませんでした。それは私の習う生け花の花展での出来事です。私は花展の前日に展示の準備をしたのですが、当日の朝、状態の確認をすることができ

ませんでした。会場に到着したときにはすでに来賓の先生方の巡回を待とうとたくさん先生の先生やお客さんが来ていました。その後、先生の巡回を待つために自分の生け花の前に行きました。ところが、あんなに一生涯懸命に生けた花はしおれ、葉がたれ下がっていました。来賓の先生に作品を見ていただけの貴重な花展。よりによってその花展で私の作品がみだれてしまうとは思っていませんでした。私の頭の中は真っ白になりました。その様子を見た母は自宅に連絡し、かわりの花で、生けかえの用意をしてくれました。でも私は、初めての大きな花展でのトラブルで、く然としてしまい、その場で生けかえの自信もなかったせいか、ただこの場から、逃げたい一心でした。「大丈夫。生けかえられるから。」と何度も話しかける母と下をうつむいて返事をしない私。様子のおかしい私たちを心配して周囲の人が声をかけてくれました。たくさんさんのいたわりやほげました言葉。でも私は答えることができ

ません。その時、「大丈夫？花ばさみを持つている？持つていないんだしたら私のを使って。」という声と、「大丈夫？まだ巡回まで時間があるわ。がんばろう。」という声が聞こえました。そこには私と同じぐらいの年の女の子と、おばあさんが立っていました。本心にやさしい目で、私のことを心配してくれているのが伝わってきます。でも私は、はずかしいやらくやししいやら、混乱するばかりで、あふれてくる涙をおさえ、くちびるをかみしめ、ただ顔をふるることしかできません。周りの人のやさしい言葉が、なぜか私にはひどくはずかしく聞こえて、とうとうトイレに閉じこもってしまいました。「せっかくのチャンス大事にしなさい。」という母の言葉が出ていくと、たくさんの方が心配してくれていました。あいかわらず頭は混乱していましたが、新しく生けなおしました。周りの人は口々に、「間に合っ